

尾道市立大学 2022(令和4)年度の授業について

2022年3月11日ポータル配信添付ファイル

件名	2022(令和4)年度授業における留意事項
差出人	尾道市立大学長(返信不可)
本文	学生のみなさまへ(教職員にも配信しています) ポータルサイト「その他」に2022年度の時間割表が掲示されました。 本配信添付ファイル「【必ず読んでください】2022(令和4)年度授業について」には2022年度の 新型コロナウイルス感染症拡大時のシラバス変更などの留意事項を示しています。

学生のみなさまへ

この資料では2022(令和4)年度の授業方針と、新型コロナウイルス感染症に係る授業対応を説明しています。
授業についての基本的な説明は入学時に配付した学生便覧に示してありますのであわせてご参照ください。

(スライド資料の構成)



(8~14ページには各科・課程の授業デザイン原則が示されています)

2022(令和)4年度 授業の基本方針

- ① 授業の目標設定、教材の構成や提供方法、展開、課題の内容を学修者の自律性を高める構造にします。
- ② 教員－学修者の双方向コミュニケーションおよび学修者同士の協働的な学びの機会を確保します。
- ③ 状況に応じて柔軟に対面活動の参加人数を調整し、場合によっては全オンライン授業に切り替えることが可能な授業をデザインします。

学科・研究科、課程ごとの「授業デザイン原則」を作成しました。●をクリックして読んでください。

教養教育

経済情報

日本文学

美術
実習演習／講義

教職課程

学芸員資格課程

シラバス① シラバスの閲覧方法

シラバスは講義の内容や評価方法など「授業計画」が詳しくまとめられた資料です。
履修登録前でもポータルで検索して見ることができます。

シラバス照会

ono-po 尾道市立大学ポータルサイト

学籍情報 アンケート/安否 時間割/シラバス 施設利用状況確認 授業 就職 成績照会

シラバス照会

- 3月8日から活動制限「レベル1」です 尾道市立大学長 [2022/03/07] **NEW**
- 本学における新型コロナウイルス感染者の発生について 尾道市立大学長 [2022/03/02]
- 【重要】休学・退学の届出について 教務係 (返信不可) [2022/02/04]
- 2月3月の留意事項と今後の予定 尾道市立大学長 [2022/02/02]
- 2月3日(木)以降も「レベル2」を継続します 尾道市立大学長 [2022/01/21]
- 2022(令和4)年度の授業について 尾道市立大学長 [2021/11/24]
- 新型コロナウイルスワクチン接種を事由とする授業の欠席についての取り扱い 教務係 (返信不可)
- 尾道市立大学 緊急連絡用ツイッターアカウントについて 教務係 (返信不可) [2021/04/13]
- 新型コロナウイルス感染者等への誹謗・中傷に対する注意喚起【返信不可】 ハラスメント委員会

2022年度授業のシラバスが公開されています。科目名や教員名で検索できます

ono-po 尾道市立大学ポータルサイト

シラバス検索

開講 2021年度 全て対象

科目名称 (部分一致: カナ、英語含む)

教員氏名 (部分一致: カナ、英語含む)

学科 芸術文化学部 日本文学科

曜日時限 全て対象 全て対象 集中講義など

キーワード (部分一致)

クリア 検索

シラバス② シラバスの構成

尾道市立大学大学院授業計画

授業科目名	文章表現法入門	開講年次	1	開講学期	2022年度前期	単位数	2
科目コード	G-HU-111L						
【科目の位置付け】							
この授業の基礎となる科目							
次に履修が望まれる科目							
【授業の到達目標及びテーマ】 文章作成のための基礎知識や基本ルールを修得し、レポートや通信文、報告書において論理的でわかりやすい文章が書けるようになることを目指す。							
【授業の概要】 大学生に必要な文章表現力の獲得を目指す。日本語の特徴を理解しながら通信文・ブックレポート・報告書等の基礎知識やルール等を学び、実際にそれらの文章の作成・推敲を段階的に行う。							
【授業計画】							
<p>第1回 言葉遣いのニュアンス 自己紹介文(講義、読解、フィードバック)</p> <p>第2回 話し言葉と書き言葉 依頼文(講義、読解、フィードバック)</p> <p>第3回 敬語 通文(講義、読解、フィードバック)</p> <p>第4回 文章作成の約束事(講義、読解、フィードバック)</p> <p>第5回 ブックレポートの構成と文(講義、読解、フィードバック)</p> <p>第6回 ブックレポート(1)基礎知識(講義、読解、フィードバック)</p> <p>第7回 ブックレポート(2)作成準備(講義、読解、フィードバック)</p> <p>第8回 ブックレポート(3)要約(講義、読解、フィードバック)</p> <p>第9回 ブックレポート(4)意見と批評的読解(講義、読解、フィードバック)</p> <p>第10回 ブックレポート(5)作成(講義、読解、フィードバック)</p> <p>第11回 報告書(1)導入と意見の導き(講義、読解、フィードバック)</p> <p>第12回 報告書(2)意見まとめる(講義、読解、フィードバック)</p> <p>第13回 報告書(3)導入をまとめる(講義、読解、フィードバック)</p> <p>第14回 論経理レポート(1)アンケート調査方法(講義、読解、フィードバック)</p> <p>第15回 論経理レポート(2)手順と引用(講義、読解、フィードバック)</p>							
各回授業の事前・事後学習にはおよそ1時間程度を必要とし、課題への取り組みは指示された苑先に毎授業日までに提出すること。							
テキスト	資料を配付するが、参考書類については以下を確認した上で各自が準備すること。						
参考書・参考資料等	必要に応じて授業中に指示するが、履修者はブックレポート執筆用の「新書」1冊を必ず準備しておくこと。各自が準備する「新書」は岩波新書、講談社現代新書等が選定の参考となり、ジャンルは不問とする。						
学生に対する評価	授業への取り組み(20%)と毎回の課題提出物の内容(80%)の積み重ねによる総合評価。						
備考	オンライン授業の場合はポータルサイトで資料を配付するオンデマンド授業。読解に基づいたレポートを含めて文章作成課題への段階的・継続的な取り組みが必要となる。課題提出物とアンケート調査への回答をもとに各回授業のフィードバックを行う。						
担当教員の業務経歴の有無	×	業務経歴の具体的内容					

【授業の到達目標及びテーマ】学修を通してどのようなことができるようになるかが示されています。

【授業の到達目標及びテーマ】

文章作成のための基礎知識や基本ルールを修得し、レポートや通信文、報告書において論理的でわかりやすい文章が書けるようになることを目指す。

テキストや参考資料、評価方法が示されています。

テキスト

資料を配付するが、参考書類については以下を確認した上で各自が準備すること。

参考書・参考資料等

必要に応じて授業中に指示するが、履修者はブックレポート執筆用の「新書」1冊を必ず準備しておくこと。各自が準備する「新書」は岩波新書、講談社現代新書等が選定の参考となり、ジャンルは不問とする。

学生に対する評価

授業への取り組み(20%)と毎回の課題提出物の内容(80%)の積み重ねによる総合評価。

シラバス②シラバスの構成(つづき)

【科目の位置付け】	
この授業の基礎となる科目	次に履修が望まれる科目
【授業の到達目標及びテーマ】 文章作成のための基礎知識や基本ルールを修得し、レポートや通信文、報告書において論理的でわかりやすい文章が書けるようになることを目指す。	
【授業の概要】 大学生に必要な文章表現力の獲得を目指す。日本語の特徴を理解しながら通信文・ブックレポート・報告書の基礎知識やルール等を学び、実際にこれらの文章の作成・推敲を段階的に行う。	
【授業計画】	講義内容
第1回 言葉遣いのニュアンス 自己紹介文(講義、課題、フィードバック) 第2回 話し言葉と書き言葉 依頼文(講義、課題、フィードバック) 第3回 敬語 通信文(講義、課題、フィードバック) 第4回 文章作成の約束事(講義、課題、フィードバック) 第5回 ブックレポートと読書感想文(講義、課題、フィードバック) 第6回 ブックレポート(1)基礎知識(講義、課題、フィードバック) 第7回 ブックレポート(2)作成準備(講義、課題、フィードバック) 第8回 ブックレポート(3)要約(講義、課題、フィードバック) 第9回 ブックレポート(4)意見と批判的読解(講義、課題、フィードバック) 第10回 ブックレポート(5)作成(講義、課題、フィードバック) 第11回 報告書(1)事実と意見の違い(講義、課題、フィードバック) 第12回 報告書(2)意見をまとめる(講義、課題、フィードバック) 第13回 報告書(3)事実をまとめる(講義、課題、フィードバック) 第14回 論証型レポート(1)アンケート調査方法(講義、課題、フィードバック) 第15回 論証型レポート(2)手順と引用(講義、課題、フィードバック)	
各回授業の事前・事後学習にはおよそ1時間程度を必要とし、課題への取り組みは指示された宛先に指定期日までに提出すること。	
テキスト	資料を配付するが、参考書類については以下を参照した上で各自が準備すること。
参考書・参考資料等	必要に応じて授業中に指示するが、履修者はブックレポート執筆用の「新書」1冊を必ず準備しておくこと。各自が準備する「新書」は岩波新書、講談社現代新書等が適定のものであり、ジャンルは不問とする。
学生に対する評価	授業への取り組み(20%)と毎回の課題提出物の内容(80%)の積み重ねによる総合評価。
備考	オンライン授業の場合はポータルサイトで資料を配信するオンデマンド授業。読書に基づくレポートを含めて文章作成課題への段階的・継続的な取り組みが必要となる。課題提出物とアンケート機能への回答をもとに各回授業のフィードバックを行う。
担当教員の業務反映の有無	× 業務反映の具体的な内容

【授業計画】講義内容

「シラバスの【授業計画】講義内容に沿って授業が実施されます。事前事後学修の内容や所要時間も示されています。授業形態が「対面」の場合、この計画に沿って教室で対面授業が実施されます。

【授業計画】	講義内容
第1回	言葉遣いのニュアンス 自己紹介文(講義、課題、フィードバック)
第2回	話し言葉と書き言葉 依頼文(講義、課題、フィードバック)
第3回	敬語 通信文(講義、課題、フィードバック)
第4回	文章作成の約束事(講義、課題、フィードバック)
第5回	ブックレポートと読書感想文(講義、課題、フィードバック)
第6回	ブックレポート(1)基礎知識(講義、課題、フィードバック)
第7回	ブックレポート(2)作成準備(講義、課題、フィードバック)
第8回	ブックレポート(3)要約(講義、課題、フィードバック)
第9回	ブックレポート(4)意見と批判的読解(講義、課題、フィードバック)
第10回	ブックレポート(5)作成(講義、課題、フィードバック)
第11回	報告書(1)事実と意見の違い(講義、課題、フィードバック)
第12回	報告書(2)意見をまとめる(講義、課題、フィードバック)
第13回	報告書(3)事実をまとめる(講義、課題、フィードバック)
第14回	論証型レポート(1)アンケート調査方法(講義、課題、フィードバック)
第15回	論証型レポート(2)手順と引用(講義、課題、フィードバック)

各回授業の事前・事後学習にはおよそ1時間程度を必要とし、課題への取り組みは指示された宛先に指定期日までに提出すること。

授業形態が「オンライン」の場合、備考欄に記載された方法を用いて【授業計画】講義内容に沿って、オンライン授業が実施されます。

備考	オンライン授業の場合はポータルサイトで資料を配信するオンデマンド授業。読書に基づくレポートを含めて文章作成課題への段階的・継続的な取り組みが必要となる。課題提出物とアンケート機能への回答をもとに各回授業のフィードバックを行う。
----	---

【配信】2022年度授業レベル別形態(エクセルファイル)で調べることができます

- 【通常時】 すべて対面授業(通常の座席間隔で教室で授業を行います)
- 【レベル0】 すべて対面授業(感染対策をしながら通常の座席間隔で教室で授業を行います)
- 【レベル0.5】 座席間隔をあけて対面授業を実施します。オンライン授業を行う科目もあります。
- 【レベル1】 座席間隔をあけて対面授業を実施します。オンライン授業を行う科目もあります。
- 【レベル2と3】 原則オンライン授業ですが、一部の授業で対面活動を行います。
- 【レベル4】 すべて休講になります。

レベル0.5、1、2と3において、どの授業が「対面」でどの授業が「オンライン」で行われるかについて、エクセルファイルで調べることができます。フィルター機能を利用して科目名や教員名で検索してください。資料配信やオンライン授業チームのチームコード、課題提出方法など、授業のより詳しい方法は授業担当教員から履修登録後に伝達されます。

	A	B	C	E	F	G	H	I
1	ID	担当教員	科目名	開講期	クラス区分	レベル0.5	レベル1	レベル2と3
2	11	松本慎平	情報活用基礎 I	前期	実習・演習	対面	対面	オンライン
3	12	松本慎平	情報活用基礎 II	後期	実習・演習	対面	対面	オンライン
4	13	松本慎平	プログラミング1実習	後期	実習・演習	対面	対面	オンライン
5	14	市川彰	日本美術史	通年	講義・小	対面	オンライン	オンライン
6	m17	鷹橋 明久	研究指導(論文指導)	複期	実習・演習	対面	対面	オンライン
7	m16	鷹橋 明久	漢文学演習	後期	実習・演習	対面	対面	オンライン
8	15	世永逸彦	編集とデザイン	前期	講義・中	対面	オンライン	オンライン
9	16	植松頌太	思考とデザイン	後期	講義・中	対面	オンライン	オンライン
10	17	荒井貴史	基礎演習 I	前期	実習・演習	対面	対面	オンライン
11	18	西嶋亜美	美学	通年	講義・中	対面	オンライン	オンライン
12	m11	鷹橋 明久	研究指導(論文指導)	複期	実習・演習	対面	対面	オンライン
13	m10	鷹橋 明久	漢文学特講	前期	講義・小	対面	対面	オンライン

「やむを得ない事由により対面授業に出席することができない」場合 オンライン授業等代替活動申請書

申請書書式は教務係からポータル配信されています

以下の《やむを得ない事由》に該当する場合はオンライン授業等代替活動の申請が可能です。**必要事項を記入して事務局窓口(教務係)に申請書を提出してください。授業担当教員への個別申請は行わないでください。**承認された場合、代替活動(オンライン授業や課題配信等)の提供を受けることができます。ただし、代替活動の提供が困難な授業もあります。申請前にどのような代替活動が提供されるかを知りたい場合は、チューター教員に問い合わせてください。

《やむを得ない事由》

- あ)日本国外に滞在し、事前に計画・調整しても対面授業受講のための入国が不可能であったと判断された場合
- い)身体的疾患等の理由により新型コロナウイルス感染症重症化リスクが高く対面授業受講が困難な場合
- う)通学時住所において新型コロナウイルス感染症の重症化リスクが高い家族 と同居している場合
- え)学外実習前後の期間に、自宅待機の必要が生じた場合
- お)濃厚接触者等として、自宅や施設等での待機の必要が生じた場合
(PCR検査の結果陽性だが無症状もしくは軽い症状の場合、濃厚接触者の疑いがある場合※も含む)
- か)障害による制約で他の合理的配慮を提供しても対面授業受講が困難な場合
- き)その他学長が必要と認める場合

※感染の疑いがあり新型コロナウイルス検査の対象となった者(検査対象者)と濃厚接触があった場合、検査結果が判明するまでは「濃厚接触者の疑いがある」とみなしてください。例えば「同居家族が体調不良あるいは濃厚接触者としてPCR検査等を受け結果を待っている状態の場合」などが該当します。

教養教育

大学全体としての基本方針に準拠し、学修者の自律性を高める授業、教員と受講生の双方向コミュニケーションおよび受講生同士の協働的な学びの機会を確保した授業に取り組みます。

また、社会状況の変化に柔軟に対応します。

経済情報学科／経済情報研究科

①学修者の自律性を高める授業

- 大講義室・中講義室・小講義室・演習室, これら四種類すべての空間で展開されることでの, 多数かつ多様な授業で構成される学科のカリキュラムをふまえ, 一律の基準を押しつけることはせずに授業担当教員各位の教授方法を尊重します。そのうえで, 知識の切り売りに終始しない, 新たな知の源泉となりうる授業の組み立てとして何が必要かを持続的に考え続けていく姿勢を忘れません。「顔の見える」チューター制度を大いに活用して, 学修者の小さな声にも耳を傾けます。
- 講義系科目においては, リアクションペーパーや小レポート提出などを定期的に課すことにより, 平常時の着実な取り組みが成果につながるように授業の設計を工夫して, 学修者のモチベーションを刺激することを試みます。
- 演習系科目においては, 学生自身による調査・研究発表を授業編成自体に織り込むことで, 能動的に「考える」姿勢を身につけられるよう促します。またインターカレッジやフィールドワーク等, 外部との接点になる機会を可能な限りで設け, 学修者の関心領域が広がるように後押しします。

②教員と受講生の双方向コミュニケーションおよび受講生同士の協働的な学びの機会を確保した授業

- 講義系科目においては, 受講生ないし学修者同士の横断的連携を可能にする工夫を導入していきます。対面授業であれば, 教室の雰囲気共有するなかで教員対学修者のみならず学修者対学修者の関係も構築され, 縦系と横系が自ずと交わるのに対し, オンライン授業の場合には, 教員対学修者個人の経の関係のみが強調され, 学修者同士の緯の関係は寸断されがちです。リアクションペーパーや小レポート上に現れる学修者の意見を授業内で紹介するなどして, 顔が見えにくい中でも学修者が「大学らしい」多人数講義を受講している実感を抱けるよう, 教員側も配慮します。
- 演習系科目においては, 従来から, 教員と学修者の, また学修者同士の「顔の見える」関係を保持する場として機能しており, この点は対面・オンラインを問わず有効であり続けています。経済情報学科には必修科目として1年次配当基礎演習・3年次配当専門演習・4年次配当専門演習(卒業研究)があり, 選択必修科目として(受講者選抜を経た)2年次配当特別演習も存在しますが, いずれの演習においても学修者は研究発表の機会を与えられ, 教員のみならず他の学修者からコメントを得られる仕組みになっています。教員と学修者全員がサークルを組んで共通書籍を読み合わせる「輪読」形式で運営される演習も多くあり, 良き伝統の助けが協働の場を支え続けています。

③社会状況の変化に柔軟に対応することができる授業

- 講義系・演習系の双方において, 新型ウィルスの感染拡大に代表される危機的状況が要請する変化に柔軟に対応できるように, かつ対応の段取りが明確になるように, シラバスを構成する段階から想定されうるリスクを十分考慮に入れて, 危機対応を具体化するように努めます。また, 授業ごとの対応があまりに多様になりすぎると学修者の側に過大な負荷をかけることもまたリスクであるとの認識を教員間で共有し, 経済情報学科内の他の授業の実施形態に関わる情報を教授会兼学科会議で定期的に確認するなどして, 大まかな方針のすり合わせを図ります。

[2ページに戻る](#)

日本文学科／日本文学研究科

①学修者の自律性を高める授業

- 授業のねらいや学修段階の位置づけがわかりやすいように、シラバスに明記します。
- 初回のガイダンス、各回の授業でも全体の中の位置づけや目標設定、活動や作業(何をねらいとして何をやるのか)を具体的にわかりやすく示します。
- 授業で用いる資料は十分な事前学修に必要な時間的余裕を配慮して提示します。
- 授業の前後で自律的に学修が進められるよう具体的な内容指示と取り組み時間の目安を示します。
- 学修者が自分で学びを深められるような課題を設定します。

②教員と学修者の双方向コミュニケーションおよび学修者同士の協働的な学びの機会を確保した授業

- オンラインを活用し、双方向性を確保するチャンネルと機会をつくります。
- 学修者からの反応を引き出す工夫をし、質問や課題を通じた双方向性を確実に実現します。
- 授業の内容や、達成課題にあわせて、学修者同士が積極的にかかわりあい協力し合える機会をつくります。

③社会状況の変化に柔軟に対応することができる授業

- 状況に応じて対面とオンラインを柔軟に切りかえます。
- 対面授業を基本にしながら、授業の到達目標が達成されることを第一に考えて、オンラインを通じたいろいろな方法を併用していきます。授業改善アンケートでの意見や、教員相互の授業観察を通して、問題点を客観的に見直し改善していきます。
- 対面性の重要な演習・論文指導や、学外活動をともなう授業は、状況にあわせた実施時期や実施方法を適切に判断し、許される最大限の指導や学生の自律的・協働的活動を実現できるように環境を整備します。

美術学科／美術研究科－実習・演習

①学修者の自律性を高める授業

- わかりやすい課題シートを用いて、課題内容・条件などを受講生に提示します。
- 担当教員が課題内容・条件を丁寧に説明し、また、質疑応答をおこないます。
- 課題内容・条件に沿って、受講生が主体的に作品を制作します。
- 受講生が制作した作品を介し、講評・ディスカッションなどをおこないます。

②教員と受講生の双方向コミュニケーションおよび受講生同士の協働的な学びの機会を確保した授業

- 対面もしくはオンラインツールによる課題説明や、受講生が作品を制作する期間において、随時、質疑応答に応じます。
- 受講生が作品を制作しているあいだ、対面授業の場合は巡回指導やミーティングなど、オンライン授業の場合はオンラインツールを用いて、適宜、進捗状況の確認や制作の指導などをおこないます。
- 講評・ディスカッションにおいては、教員からの発言を聞くだけでなく、受講生のプレゼンテーションや積極的な発言を求め、双方向の意見交換をおこないます。
- 課題内容、制作の途中経過などについて、受講生のあいだでの積極的な意見交換を推奨します。

③社会状況の変化に柔軟に対応することができる授業

- 美術学科D棟の各アトリエ、教室、工房で、感染予防対策をした上での最大収容人数を決め、状況に応じて、使用人数を調整します。
- 社会状況によっては、すべてオンライン授業に切り替えることがあります。
- オンライン授業に切り替えた場合においても、受講生の学修の機会を確保します。

美術学科／美術研究科－講義

①学修者の自律性を高める授業

- 授業の目標について、ガイダンスなどを含め、随時、受講生に伝えていきます。
- 授業の目標、内容などに即し、構成に工夫を凝らした教材を作成・提供し、また、教材を提供する方法についても、ガイダンスなどにおいて、丁寧に伝えていきます。
- 内容に即した課題やリアクションペーパーなどの提出を課すなど、主体的な学修の機会を確保していきます。
- 課題の内容などは、受講生が、内容に関する知識を得たうえで、主体的に思考する力を養うものとしします。

②教員と受講生の双方向コミュニケーションおよび受講生同士の協働的な学びの機会を確保した授業

- 対面もしくはオンラインツールによる授業に際して、また、受講生が予習・復習をする期間において、随時、内容などに関する質疑応答に応じます。
- 授業の目標・内容の必要や、受講生の求めに応じて、受講生から提出された課題やリアクションペーパーなどに対して、コメントを返すなど、教員がリアクションします。
- 授業の目標・内容の必要に応じて、受講生のプレゼンテーションや積極的な発言を求め、双方向の意見交換をおこないます。
- 授業の目標・内容の必要に応じて、グループワークやディスカッションを設定するなど、受講生のあいだでの積極的な意見交換を推奨します。

③社会状況の変化に柔軟に対応することができる授業

- 社会状況によっては、すべてオンライン授業に切り替えることがあります。
- オンライン授業に切り替えた場合においても、受講生の学修の機会を確保します。
- 授業の目標や内容に応じて、ハイフレックス授業、リアルタイム配信、オンデマンド、課題提示型などを適切に選択し、柔軟に対応していきます。

教職課程

①学修者の自律性を高める授業

(教職課程全体としての取り組み)

- 学期はじめの教職ガイダンスで教職課程の科目構成を説明し、ポートフォリオを活用した学びの振り返りや目標設定を行うことができるようにします。
- 地域の教育活動や公開授業研究会や教育フォーラム(対面/オンライン)について、講義内容と関連付けながら情報提供を行うことで、学生の自主的な取り組みを促します。

(授業担当教員の取り組み)

- 初回の授業でシラバスを示し、授業の到達目標と授業内容を受講生に伝えます。
- オンラインを有効活用した授業時間外学修課題を示し、授業内で課題への取り組み方を説明します。科目の配当年次をふまえ、段階的に学修者の自律性を高めることができるように課題を設定します。
- 授業の中で受講生が発表したり模擬授業を行ったりする機会を確保していきます。
- 教育実践に関する科目(教育実習や学校体験活動)については、臨地での実習や今後の学びへの主体的な取り組みにつながる事前・事後学習を行います。

②教員と受講生の双方向コミュニケーションおよび受講生同士の協働的な学びの機会を確保した授業

- 授業の到達目標や内容に応じて、グループワークやディスカッションを設定するなど、受講生同士の積極的な意見交換を推奨します。

③社会状況の変化に柔軟に対応することができる授業

- 受講生が学校教育におけるICT活用の実際を体験的に理解し、学校現場で活用するための基礎を身につけることができるように、教職課程の授業においてICTを活用した協働的な学びを実践します。
- オンライン対応が必要になった場合は、対面授業のオンラインリアルタイム中継を基本にしつつ、授業の到達目標や内容、受講生の自律性に応じて多様な方法で授業を実施します。どのような授業形態であっても、適切な対人距離やタイミングで、教員-受講生および受講生同士の双方向コミュニケーションが可能な環境を構築します。
- 全員がオンラインで授業に参加する状況になった場合も、模擬授業や発表を担当する学生には教室において対面実施できる機会を設けます。
- 教育実習等の学外実習については、管轄省からの通知に基づき実習時期や形態を判断します。教育委員会や実習先機関と連絡協議の上、状況に応じた感染防止対策(ワクチン接種・抗体・抗原・PCR検査に関する証明書の提示を含む)を実施したうえで、可能な限り臨地での実習を目指します。ただし、医学的な事由でワクチンが接種できない等により、臨地での実習に強い不安を有する学生に対しては、管轄省の通知に基づき実施可能な場合は学内で代替の活動を行う環境を整備します。

学芸員資格課程

①学修者の自律性を高める授業

- 授業の目標について、ガイダンスなどを含め、随時、受講生に伝えていきます。
- 授業の目標、内容などに即し、構成に工夫を凝らした教材を作成・提供し、また、教材を提供する方法についても、ガイダンスなどにおいて、丁寧に伝えていきます。
- 内容に即した課題(ケーススタディを含む)やリアクションペーパーなどの提出を課すなど、主体的な学修の機会を確保していきます。
- 課題などの内容は、受講生が、内容に関する知識を得たうえで、主体的に思考する力を養うものとしします。
- 実習系科目(「博物館実習Ⅰ」「博物館実習Ⅱ」)のプログラムは、講義系科目で得た知識などをベースとして、資料の取り扱い実習、学外での館園実習(事前リサーチ、事後の振り返りを含む)、企画のプレゼンテーションなど、受講生の主体的な学修を前提とした内容としします。

②教員と受講生の双方向コミュニケーションおよび受講生同士の協働的な学びの機会を確保した授業

- 対面もしくはオンラインツールによる授業に際して、また、受講生が予習・復習をする期間において、随時、内容などに関する質疑応答に応じます。
- 授業の目標・内容の必要や、受講生の求めに応じて、受講生から提出された課題やリアクションペーパーなどに対して、コメントを返すなど、教員がリアクションします。
- 授業の目標・内容の必要に応じて、受講生のプレゼンテーションや積極的な発言を求め、双方向の意見交換をおこないます。
- 授業の目標・内容の必要に応じて、必要に応じてグループワークやディスカッションを設定するなど、受講生のあいだでの積極的な意見交換を推奨します。

③社会状況の変化に柔軟に対応することができる授業

- 社会状況によっては、すべてオンライン授業に切り替えることがあります。
- オンライン授業に切り替えた場合においても、受講生の学修の機会を確保します。
- 授業の目標や内容に応じて、ハイフレックス授業、リアルタイム配信、オンデマンド、課題提示型などを適切に選択し、柔軟に対応していきます。
- 実習系科目(「博物館実習Ⅰ」「博物館実習Ⅱ」)のプログラムについては、文化庁の通達などにしたがって、演習などで代替する措置を取ることがあります。